



ここにしかない癒しの空間をつくる

愛育クリニック3階、4階の改修により、「愛育産後ケア子育てステーション」が整備されました。整備計画に関わった沢山の人が議論や検討を重ね、利用者目線でのアイデアを沢山盛り込みながら、運用と施設が合致した「産後ケア施設のロールモデル」を目指しました。住まいとケアの場に、街の要素も盛り込んだ、お母さんと赤ちゃんのためのここにしかない癒しの空間が出来上がりました。

写真左：有栖川宮記念公園の緑を眺めながら思い思いの時間を過ごすカフェテリア
写真右：かつて使われていたアーチ型開口をデザインに活かしたロビーラウンジ

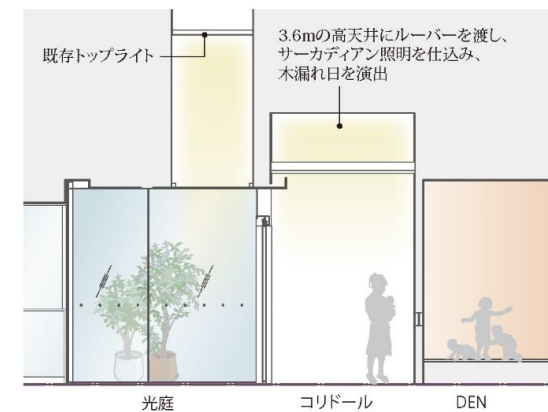
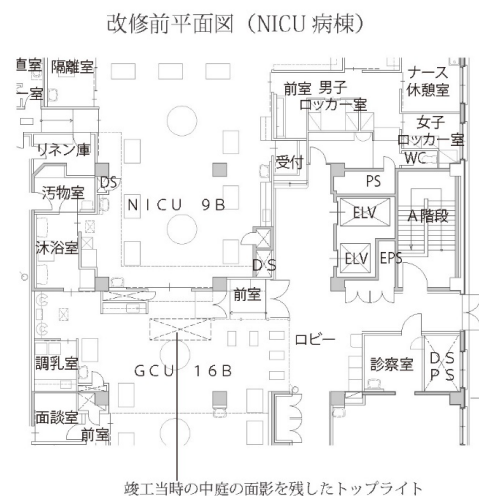
「住まい」「街」「ケアの場」を共存させる

お母さんと赤ちゃんが日常生活を楽しみながらリラックスして過ごすことができ、そこに専門家の見守りとケアがさり気なく付加されている環境が、産後ケア施設には必要と捉えました。そこで、「お母さんと赤ちゃんが安心して過ごす第二の住まい」「専門スタッフが見守るケアの場」「自然を感じながら過ごす居心地の良い街」という3つの要素を共存させることを考えました。フロアの各場所にプライバシーレベルの段階性を設定し、パブリック空間からプライベート空間へと徐々に移行する平面構成としました。



建物の記憶を継承する 散歩道をつくる

共用部のデザインコンセプトを、広尾の街らしい「散歩道」としました。1980年の竣工当時、4階は中庭を中心に据えた婦人科病棟でした。その後のNICUへの改修により、中庭はトップライトとして面影を残すことになりました。今回、そのトップライトの周囲をガラスで囲み、内部化された光庭を設け、窓から見える有栖川宮記念公園の豊かな緑が、室内まで連続しているかのように、光庭にシンボルツリーを配しました。その光庭を中心として、木立に見立てたルーバーや、デッキのような木目調の床、植栽や小さなベンチを点在させ、公園のような散歩道を演出しています。



お母さんと赤ちゃんの 上質な住まいを整える

宿泊室は全部で15室あり、スタンダードタイプ8室、和モダンタイプ5室、スーペリアタイプ2室となっています。

どのタイプにも共通して、上質なホテルライクでありながら、ここで過ごす人が穏やかで落ち着いた気持ちになり、自宅のようにくつろいで過ごすことができる、そんな包容力のある空間を目指しました。また、空間の見た目の美しさはに加え、お母さんと赤ちゃんの過ごし方や心情、安全性や清掃性に配慮してディテールをデザインし、内装材や什器備品をひとつひとつ丁寧に選びました。



スタンダードタイプ



和モダンタイプ



スーペリアタイプ

光の演出とアートで 空間に深みと彩りを加える

照明計画とアート計画にはそれぞれの専門家が参画し、ここにしかない空間づくりを目指しました。

美しくデザインされた照明や、空間に呼応するように製作されたオリジナルアートは、それだけで街の中に点在するパブリックアートのように、フロア全体の空間に深みと彩りを加えています。

照明やアートをきっかけに、そこに対話が生まれ、想像や共感、新たな発見する喜びに満ちた時間を過ごすことが癒しにつながる、そんな空間であって欲しいと考えました。



ベビー預かり室のペンダント照明が光庭のガラスに反射し、星空のような景色を演出



和モダンとスーペリアの個室に自然をイメージしたオリジナルのアートを設置



共用部には、木漏れ日や水面の印象を工芸ガラスを用いて表現したアートを設置